

2022 年度事業報告（全国川ごみネットワーク）

1. 全国水辺のごみ調査「水辺のごみ見つけ！」の実施

- 水辺のごみの散乱状況を調査し、ごみの散乱防止対策に役立てることを目的に、継続し(7年目)、全国規模でのごみ調査「水辺のごみ見つけ！」を4月～11月の期間で実施した。
- 新たに、国土交通省河川環境課を通じ、各地方整備局等の協力を得て全国の一級水系の河川事務所にも調査を依頼した。
- 実施にあたっては、全国水環境マップ実行委員会を通じ、「身近な水環境の全国一斉調査」実施団体者(約800)に前年度の報告付のパンフレットを配布した。他にも、募集用チラシ(1,000部)を制作・印刷・配布して参加呼びかけをした。
- 水辺のごみ拾い活動に参加し、ごみ分別の説明、補助等を行い、ごみ調査の広報啓発を行った。(鮭川(7/17)、黒目川(7/24)、隅田川(9/17)、荒川(10/29))。
- 国土交通省の河川事務所の河川管理者からの報告(全国の61水系、109地点)が増えたこともあり、調査地点が全国40都道府県(前年度34都道府県)に広がり、のべ6,801名(前年度4,338名)が参加し、726件(前年度701件)の調査結果を得た。前年比で調査件数、調査距離、ペットボトル数、カップ型飲料容器数ともに増加しているのに関わらず、レジ袋だけは減少傾向という結果が昨年に続いてみられた。
- 結果を調査報告パンフレットにまとめ、調査参加者などヘフィードバックするとともに、次年度の調査参加を促すよう配布した。
- 調査結果は、PET ボトルリサイクル推進協議会、全国清涼飲料連合会、プラスチック工業連盟、プラスチック循環利用協会等を訪問し共有した。
- 別途、河川管理者の調査結果だけをとりまとめ、コメントされた河川ごみの課題などと合わせ、国土交通省河川環境課および、各地方整備局の河川ごみ担当者に共有した。



写真1 募集チラシ



写真2 鮭川での清掃活動(7/17)



写真3 黒目川での清掃活動(7/24)



写真4 隅田川での清掃活動(9/17)



写真5 荒川での清掃活動(10/29)

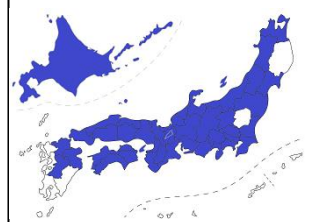


図1 調査実施の都道府県

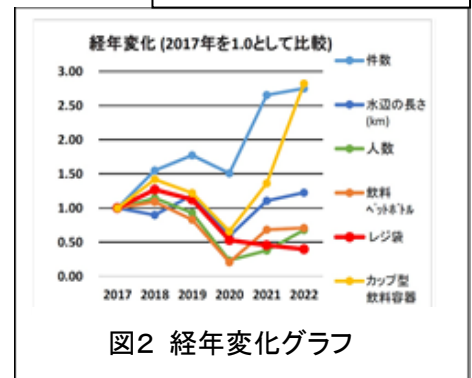


図2 経年変化グラフ

2. 川ごみサミットの開催

- ・1月28日（土）に、全水道会館（東京都文京区）において、オンライン併用で第8回川ごみサミットを開催した。
今回は、「川で拾ったごみの行方を考える」をテーマとした。ボランティアが回収したごみの処理に関する法整備・ルール化が必要という前年度に出された課題を受け、国土交通省、環境省、自治体の担当者、市民団体からそれぞれ取組紹介いただき、参加者共に意見交換を行った。
- ・オンライン併用により、遠方の方にもたくさんご参加いただいた。当日参加の申込者99名、参加者84名（会場21名、オンライン63名）。
- ・国土交通省の後援を受け開催した。
- ・結果は報告書としてとりまとめ、印刷し、関係各所に配布した。



写真6 第8回川ごみサミット



写真7 川ごみサミット報告

3. 川ごみ削減の普及啓発

① プラごみ削減普及プロジェクト

- ・4/14、6/23、8/11、8/24に川ごみ削減教材編集委員会を開催し、編集方針や構成などを検討した。主に当会役員が執筆を分担し「川ごみ学習ポイントブック」（A4判、カラー28ページ）を制作した。小冊子は500部印刷し、各地で関連する方々に配布した。

さらにホームページからダウンロードできるようにした。

- ・7月17日 鮭川クリーンアップ大作戦（山形県鮭川村）、7月24日黒目川第29回川清掃（東京都東久留米市）で啓発ツールを活用して説明を行った。
- ・普及啓発パネルは、環境イベント、清掃会場、水族館等でのイベント等の計6か所に貸出しをして、計約4,300人に閲覧いただいた。



写真8 ポイントブック

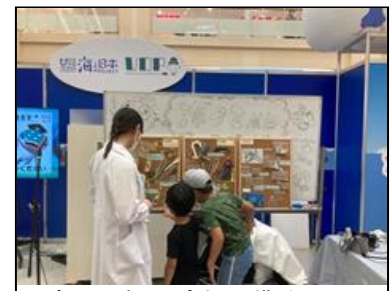


写真9 啓発パネル貸出活用

② 出前授業の実施

- ・前年度に実施した学校、その他新たに当ネットワークのホームページを検索し、連絡をいただいた小学校等の5校で出前授業を行った。身近なものが川や湖のごみ、やがては海ごみになってしまうことなどを伝え、子どもたちがごみを出さないために自分ができることを考えた。実施にあたっては可能な限り地域の活動団体・活動者の協力を受けた。



国立第八小学校



井荻小学校



宗岡第三小学校



二葉小学校

	日程		学年	児童数	清掃活動
1	5/17(火)	国立市立第八小学校	4年生	37	有(多摩川)
2	5/30(月)	杉並区立井荻小学校	6年生	82	有(善福寺川)
3	6/21(火)	志木市立宗岡第三小学校	4年生	55	なし
4	10/20(木)	墨田区立二葉小学校	5年生	88	なし
5	10/21(金)	岡谷市立長地小学校	5年生	26	なし

4. 川ごみ対策の推進に向けた情報収集・情報発信・普及啓発

○ごみ処理の課題に関するヒアリング

- ・ボランティアが回収したごみの処理について、岡山の河川関係者(国土交通省岡山河川事務所、岡山県環境文化部、岡山市環境部)、および多摩川の関係者(国土交通省京浜河川事務所)、市民団体等にヒアリングを行った。それぞれの事例は、第8回川ごみサミットで現状や課題等を共有し、解決に向けた議論へと繋げた。

○オンラインミニセミナーの開催

- ・会員、一般を対象として以下の2回開催し、講義と意見交換をおこなった。
 - 1)7月19日 九州大学 応用力学研究所 磯辺篤彦教授
テーマ：海洋ごみ調査・研究の最新状況、市民調査とそのネットワークとの連携
参加者数：37名
 - 2)12月6日 宮城学院女子大学 森康浩准教授、東北文教大学 中俣友子先生
テーマ：行動心理学を応用したごみのポイ捨て抑制対策
参加者数：32名

○提言活動

- ・市民団体等が連携した「減プラスチックの社会を実現するNGOネットワーク」の構成団体として、「プラスチック資源循環の改善に向けて」環境省リサイクル推進室、循環型社会推進室、および立憲民主党への提言に参画した。

○講演・講師・発表など

- ・日本再生可能エネルギー、国土交通大学校、全国建設研修センター、淀川河川レンジャー、生活クラブ生協埼玉等、計6回のオンラインを含む講演、イベント等で講師等を行い、川ごみ削減の普及啓発、全国水辺のごみ調査の協力依頼などを積極的に行った。
- ・海と日本プロジェクト関連事業への協力として、天竜川(伊那市)でのかいぼり体験ならびに海辺(浜松市)でのこどもエコクラブごみ調査などのイベントサポートおよび講師を務め、テレビ番組、YouTubeなどでも紹介された。
- ・いい川・いい川づくりワークショップ(9/3-4)、川の日ワークショップ関東大会(3/5)に参加し活動内容などを発表した。

○その他

- ・助成金応募に向け、韓国NGOとのオンライン打合せを行い連携できることを確認した(助成金不採択であったために実行は保留)。
- ・取材を受け、読売SDGs新聞、「婦人之友」2023年2月号で川ごみの現状、ごみ調査などについて掲載され多くの方に発信した。
- ・ホームページ、Facebookを随時更新し、情報を発信した。

5. 組織運営

- ・5月12日(木)に理事会を開催し、事業計画、予算等について検討した。
その他ほぼ毎月の理事・監事ミーティング、および随時Eメールにおいて各種事業の企画運営等を検討し、進捗等を確認した。
- ・全国水辺のごみ調査報告者、オンラインミニセミナー参加者へ入会をお誘いするなど年間を通じ広く会員を募集した。年度内に、正会員4団体・3個人、賛同会員7団体・5個人(計11団体・8個人)がそれぞれ新たに入会し、3月31日時点の会員数は97に増加した(正会員34団体・21個人、賛同会員26団体・16個人)。